ソフトウェア概論 A/B (2018/10/12)

Ver. 1.0

栗野 俊一

kurino@math.cst.nihon-u.ac.jphttp://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/2018/soft/soft.html

2018年10月12日

ソフトウェア概論 $\mathrm{A/B^1}$ の 2018 年 10 月 12 日 の資料 2

目 次

1	講義資料		
	1.1	当日の OHP 資料	1
	1.2	講義で利用するサンプルプログラム	1
	1.3	講議中に作成したプログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ę
	1.4	本日の課題	Ę
		1.4.1 課題 20181012-01:一つ浮動小数点数値をキーボードから入力し、その立方	
		根を出力する	Ę
		1.4.2 課題 20181012-02:CSV	8
		1.4.3 課題 20181012-03:関数	10

 $^{$$ $$ \}frac{1$ http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/2018/soft/soft.html $2 http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/2018/soft/20181012/20181012.html}$

1 講義資料

1.1 当日の OHP 資料

- 当日の OHP 資料です。
 - 表示用 (HTML)³
 - 印刷用 (PDF)⁴

1.2 講義で利用するサンプルプログラム

Download : sample-001.c 5

リスト 1: sample-001.c

 5 program/sample-001.c

```
* 2017/07/14 sample-001.c
 * 二分法による代数方程式の解法
 * 利用方法
                コンパイル
                       cc -I ~/c/include -c sample-001.c
                リンク
                       cc -o sample-001.exe sample-001.c -lm
                実行
                        ./sample-001.exe
#include <stdio.h>
#include "s_input.h"
#include "s_print.h"
     : EPSILON (誤差限界:これより小さい時は同じと見做す)の定義
#define EPSILON 0.000001
                             /* define で (EPSILON)を定義 */
                                                   /* 計算結果の精度の尺度になる */
                                                   /* 残念ながら「0」にはできない */
                                                   /* 今回は 0.00001 だが、もちろん、
                                                     0.01 とか 0.00000001 にしてもよ
ll */
double f(double x) {
  <sup>3</sup>ohp/html/index.html
  <sup>4</sup>ohp/ohp.pdf
```

```
return x * x * x + 2 * x * x - x - 2;
}
  二分法で、方程式 f(x)=0 の解(x0) を求める
     min < x0 < max であり f(min)<0, 0<f(max) を仮定する
    solove_binary ( double min, double max )
 */
double solve_binary ( double min, double max ) {
              f(min) < 0 < f(max) (仮定) なので、答えは [min,max] の中にある
                     max-min < EPSILON なら、十分に精度が得られたとする
                     そうでなければ、中点 (mid = (min+max)/2 ) での
                     f の値 (f(mid)) の符号をみて、
                            正なら、答えは [min,mid] そうでなければ [mid,max] にある
       */
       if ( (max-min) < EPSILON ) {</pre>
                                       /* 十分に狭い範囲にできた */
              return (max+min)/2.0;
                                              /* 中点を答えにする */
       } else if (f((\max+\min)/2.0) > 0) {
                                             /* まだ大きい */
              return solve_binary ( min, (max+min)/2.0 );
       } else {
              return solve_binary ( (max+min)/2.0, max );
       }
}
        main 関数
int main ( void ) {
       s_print_string ( "方程式 f(x)=x^3+2x^2-x-2=0 の解を、区間 [0,3] から探す\n" );
       s_{print_string} ("f(0)=-2 < 0, f(3)=40 > 0 なので、[0,3] の中に解がある\n");
       s_print_string ( "二分法で得られた答えは : " );
       s_print_double ( solve_binary ( 0.0, 3.0 ) );
       s_print_string ( "になりました。\n" );
       s_print_string ( "答えを代入すると " );
       s_print_double ( f( solve_binary ( 0.0, 3.0 ) );
       s_print_string ( " なので、ほぼ答えに近い事が分ります\n");
       return 0;
}
```

Download: sample- $002.c^6$

⁶program/sample-002.c

\$./sample-001.exe 方程式 $f(x)=x^3+2x^2-x-2=0$ の解を、区間 [0,3] から探す f(0)=-2<0, f(3)=40>0 なので、[0,3] の中に解がある 二分法で得られた答えは : 1.000000 になりました。 答えを代入すると 0.000001 なので、ほぼ答えに近い事が分ります

図 1: sample-001.c の実行結果

リスト 2: sample-002.c

\$

```
* 2017/07/14 sample-002.c
 * リーマン積分
* 利用方法
                コンパイル
                       cc -I ~/c/include -c sample-002.c
                リンク
                       cc -o sample-002.exe sample-002.c
                実行
                       ./sample-002.exe
        定積分
      \int \int dx dx
   を「数値的」に解く
*/
#include <stdio.h>
#include "s_input.h"
#include "s_print.h"
/*
#define FRACTIONAL 1000 /* 区間の等分数 */
* f(x)=x^2
double f(double x) {
              * 引数 x に対して、x の 二乗を値として返す関数
```

```
return x * x;
}
reman_sum ( int i, int n, double min, double max )
       S_i ~ S_{n^1} の和を計算する
double reman_sum ( int i, int n, double min, double max ) {
       if ( i < n )
                               /* まだ計算が必要 */
                       {
              /* 注目している短冊の面積と、残りの部分の面積の和を計算する */
                    reman_sum (i + 1, n, min, max)
                    f(min+i*(max-min)/n)*(max-min)/n;
                                  /* もう、全て計算した */
       } else {
                                     /* 残る結果は 0 になる */
             return 0.0;
}
  リーマン積分
    関数の積分値が、小さな幅の短冊の面積の和で近似できる事を利用
    solove_reaman ( double min, double max )
 */
double solve_reman ( double min, double max ) {
      min から max までを積分
      基本は reman_sum に任せる
   return reman_sum ( 0, FRACTIONAL, min, max );
}
        main 関数
int main ( void ) {
       s_print_string ( "関数 f(x)=x^2 を区間 [0,1] で数値定積分する。\n" );
       s_print_string ("リーマンの定義に従って計算した答えは:");
       s_print_double ( solve_reman ( 0.0, 1.0 ) );
       s_print_string ( "になりました。\n" );
       s_print_string ( "解析的な計算の結果は 1/3 なので、誤差は " );
       s_{print\_double} ( solve_{print\_double} ( 0.0, 1.0 ) - 1.0/3.0 );
       s_print_string ( " になり、ほぼ答えに近い事がわかります\n" );
       return 0;
```

}

\$./sample-002.exe

関数 f(x)=x^2 を区間 [0,1] で数値定積分する。

リーマンの定義に従って計算した答えは: 0.332833 になりました。

解析的な計算の結果は 1/3 なので、誤差は -0.000500 になり、ほぼ答えに近い事がわかります \$

図 2: sample-002.c の実行結果

1.3 講議中に作成したプログラム

講議中に作成したプログラム⁷

1.4 本日の課題

課題プログラム内の「/*名前:ここ*/」の部分を書き換え「/*この部分を完成させなさい*/」の部分にプログラムを追加して、プログラムを完成させます。

1.4.1 課題 20181012-01: 一つ浮動小数点数値をキーボードから入力し、その立方根を出力 する

Download : $20181012-01.c^8$

リスト 3: 20181012-01.c

```
#include "s_print.h"
                                             /* 誤差幅 */
#define
            EPSILON
                       0.0000001
 * double regula_falsi_cubic_root ( double a, double min, double mid, double max )
              double a 立方根の元になる数(正を仮定している)
              double min, max 根の入る区間の範囲
              double mid
                            min と mid の中点
                               a 立方根
              return
                     二分法により、a の立方根を求める
                     0 < min < a の立方根 < max
double regula_falsi_cubic_root ( double a, double min, double mid, double max ) {
      if ( max - min < EPSILON ) {</pre>
                                   /* 十分に精度が上った */
                                                      /* 中点の値を答として返
            return mid;
す */
      } else {
                                                    /* まだ、狭める必要がある */
             /* min が解のどちら側にあるかを調べ.. それに併せて区間を調整 */
             /* f(x)=x^3-a */
             if ( mid * mid * mid - a < 0.0 ) { /* f(mid) の符号を確認 */
                                /* 解の左にあった */
      /*
               この部分を完成させなさい
      **
                         /* 解の右にあった */
             } else {
                   return regula_falsi_cubic_root ( a, min, (min+mid)/2.0, mid );
      }
}
 * double cubic_root ( double a )
              double a 立方根の元になる数
                                a 立方根
              return
                     a の立方根を求めて結果として返すが、
                     計算の基本は、regula_falsi_cubic_root にまかせる
                     ここでは、計算の正規化を行う
double cubic_root ( double a ) {
      if (a < 0.0) {
                                                   /* a が負の数ならば.. */
            /* -a の立方根を計算し、負数を返す */
      /*
               この部分を完成させなさい
      **
```

```
} else if ( a < 1.0 ) {</pre>
                                                       /* a が 1.0 以下なら */
                この部分を完成させなさい
       **
                                                                     /* 立方根
は a と 1.0 の間にある */
                                                               /* そうでなければ.. */
       } else {
             return regula_falsi_cubic_root ( a, 1.0, (1.0+a)/2.0, a );
                                                                     /* 立方根
は 1.0 と a の間にある */
}
 * void print_cubic_root ( double a )
               double a 立方根を計算する数
                      元の数と、立方根を出力する
 */
void print_cubic_root ( double a ) {
       s_print_double ( a );
       s_print_string ( " の立方根は " );
                この部分を完成させなさい
       s_print_string ( " です。\n" );
}
        main
int main( double argc, char *argv[] )
       s_print_string ( "実数値を一つ入力してください : " );
       print_cubic_root ( s_input_double() );
      return 0;
```

12.34

図 3: 入力例

```
$ ./20181012-01-QQQQ.exe
実数値を一つ入力してください : 12.340000
12.340000 の立方根は 2.310850 です。
$
```

図 4: 20181012-01.c の実行結果

1.4.2 課題 20181012-02: CSV

Download: $20181012-02.c^9$

リスト 4: 20181012-02.c

```
* 20181012-02-QQQQ.c
        CSV ファイル内の総計を求める
        コンパイル:
               cc -I ^{\sim}/c/include -c 20181012-02-QQQQ.c
               cc -o 20181012-02-QQQQ.exe 20181012-02-QQQQ.o
        実行:
               ./20181012-02-QQQQ.exe
        第一引数で与えられた csv ファイル内の、
        A1:J10 (10x10) の行の和を J1:J10 に入れるた結果を
* 第二引数で与えられた csv ファイルに保存する。
        この課題を解く時には、
               PNAME/s_csv
  に、ファイル 20181012-02-QQQQ.c, 20181012-02.csv を保存し、
              make TEST=20181012-02-QQQQ
   で、コンパイル、リンク、実行を行う
               20181012-DIRout.csv
   が作られ、その内容が表示されれば OK
#include <stdio.h>
#include "s_cellio.h"
                       /* CSV ファイルの操作に必要 */
#include "s_csvio.h"
* void sum_row ( int row, int sum, int col, int col_max )
                               処理対象になる行番号
               row
                               ここまでのセルの値の和
               \operatorname{\mathtt{sum}}
               col
                               処理対象になる列番号
                          最大の列番号 - 1 であると同時に、総和の保存先の列番号
               col_max
void
         sum_row ( int row, int sum, int col, int col_max ) {
```

⁹ ex/02/q/02.c

```
if ( col < col_max ) { /* 列番号がまだ、最大値になっていない */
            sum_row ( row, sum + s_get_cell_with_position ( col, row ), col + 1, col_max );
                                           /* 注目している row, col の値を、*/
                                           /* sum に加えて、次の列(col+1)へ */
      } else {
                                     /* 列が最大を越えたので.. */
      /*
              この部分を完成させなさい
                                           /* その場所に、和を記録する */
      }
}
 * void sum_all_row ( int row, int row_max )
                            処理対象になる行番号
                        最大の行番号 - 1
              row_max
 */
void sum_all_row ( int row, int row_max ) {
       if ( row < row_max ) { /* 行番号がまだ、最大値になっていない */
            sum_row ( row, 0, 0, 10 );
                                                   /* その行の総和を計算する */
                                                                     /* 次
の行 (row+1) を計算 */
               この部分を完成させなさい
                                    /* 行が最大を越えたので.. */
      } else {
         /* やる事は何もない */
* update_csv
void update_csv ( char *in_file, char *out_file ) {
                                   /* 第一引数のファイルからデータを入手 */
      s_load_csv ( in_file );
      sum_all_row ( 0, 10 );
                                   /* 0 列目から 10 列分の総和を計算 */
      /* 計算結果を第二引数のファイルに保存 */
      /*
             この部分を完成させなさい
      **
}
 * main
```

図 5: 20181012-02.c の実行結果

1.4.3 課題 20181012-03: 関数

Download : $20181012-03.c^{10}$

リスト 5: 20181012-03.c

 $^{^{10} {}m ex}/03/{
m q}/03.{
m c}$

```
#define FRACTIONAL 1000 /* 区間の等分数 */
 * f(x)=\sin(x)
double f(double x) {
              * 引数 x に対して、x の 正弦値 sin(x) を値として返す関数
       /*
                この部分を完成させなさい
}
{\tt reman\_sum} \ ( \ {\tt int} \ {\tt i, int} \ {\tt n, double min, double max} \ )
      S_i ~ S_{n^1} の和を計算する
double reman_sum ( int i, int n, double min, double max ) {
                              /* まだ計算が必要 */
             /* 注目している短冊の面積と、残りの部分の面積の和を計算する */
                この部分を完成させなさい
                                  /* もう、全て計算した */
      } else {
            return 0.0;
                                    /* 残る結果は 0 になる */
}
 * リーマン積分
    関数の積分値が、小さな幅の短冊の面積の和で近似できる事を利用
    solove_reaman ( double min, double max )
 */
double solve_reman ( double min, double max ) {
      min から max までを積分
      基本は reman_sum に任せる
   return reman_sum ( 0, FRACTIONAL, min, max );
}
/*
       main 関数
```

```
*/
int main ( void ) {

s_print_string ( "関数 f(x)=sin(x) を区間 [0, /4] で数値定積分する。\n" );

s_print_string ( "リーマンの定義に従って計算した答えは : " );

/*

** この部分を完成させなさい

*/

s_print_string ( "になりました。\n" );

s_print_string ( "解析的な計算の結果は 1- 2/2 なので、誤差は " );

s_print_double ( solve_reman ( 0.0, M_PI/4.0 ) - (1.0-sqrt(2.0)/2.0) );

s_print_string ( " になり、ほぼ答えに近い事がわかります\n" );

return 0;
}
```

\$./20181012-03-QQQQ.exe

関数 f(x)=sin(x) を区間 [0, /4] で数値定積分する。

リーマンの定義に従って計算した答えは: 0.292616 になりました。

解析的な計算の結果は 1- 2/2 なので、誤差は -0.000278 になり、ほぼ答えに近い事がわかります

\$

図 6: 20181012-03.c の実行結果